

生徒一人ひとりが意欲的にとりくむ 中学修学旅行のあり方

飯島幸久

I はじめに

本校の中三における修学旅行の目的地に、飛騨・北陸方面を選んで実施しだしてから、今年で、8年になる。最近では、高山・千里浜・金沢が主な見学地として固定してきている。名古屋市内の公立中学のおこなっている、東京・日光・箱根方面に比較して、近距離で、風情が残されていて……という観光地の違いを強調するのではなく、本校の59年度の修学旅行の実践を中心にレポートとしてまとめてみた。

ここで、以下のように記されている指導要領をとりあげてみると、特活に含まれる修学旅行のあり方は、今回のレポートのみだしに掲げた面での指導が必要ではないかと判断される。とかく、物見遊山的になりやすい修学旅行の望ましいあり方を追求してみたい。

参考資料——中学校学習指導要領（文部省）から
＜特別活動—目標—＞
望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達を図り、個性を伸長するとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。
＜旅行的行事—内容—＞
平素と異なる生活環境の中において見聞を広め、集団生活のきまり、公衆道徳などについての望ましい体験を積むような活動を行うこと。

II. 本校における過去の修学旅行の変遷

過去10年ぐらいの本校のとりくみについてふれておくことで、現在のあり方が一朝一夕に出来上がったのではないということが理解されるのではなからうかと思ひ、先輩先生方の話をまとめ概略にふれたい。又私が本校着任以来（5年経過）、中三の担任を3度経験することになる。そこで過去2度の実践での新しいとりくみを記すことで、次項目の本題へのつながりを訴えたい。

《10年以上以前》

公立中学が行っているのだからということで東京・日光方面へ見学目的のみで実施

《10年前ぐらいから》

行き先を本校独自に教官側で検討するようになり毎年行き先を変えていた。軽井沢に行ったこともある。

このころから、本校の高校の修学旅行に準じて、行き先を生徒に考えさすようになりつつあった。

《昭和53年に》

高山市を目的地に選び、市内のグループワークを班単位で行わせるようになった。

《昭和54年から》

千里浜が目的地に加わり、現在とは逆のコースであったが、行き先は定着し生徒の自主性を尊重した旅行のあり方が位置づきだした。

《昭和56年・58年のとりくみ》

◎高山市内見学オリエンテーリング

方法などくわしいことは次の項でふれることにして、この年なぜオリエンテーリング方式を計画・実施したかについてふれておきたい。

(1)もちろん、生徒に単純にグループワークをおこなわせるより、真剣に楽しくとり組み・成果をあげさせることができると考えたからである。

(2)しかし、(1)よりも強い動機は、この2年とも生徒側の資質の問題をあげねばなるまい。夜の宿舎での研究発表会だけのためにグループワークを真剣にとり組めそうもなかった。特に58年の場合は、グループワークそのものをとり止めた方がよさそうな程、日常生活での問題行動が多くみられたためである。

◎千里浜宿舎での大社焼絵付け作業

56年から始めておこなったもので、この土地の特産。大社焼湯のみ茶わんで素焼の状態のものに、生徒が絵や柄や文字を筆で画く作業をさせる。（後日焼きあげて学校へ郵送してくれる。所要時間30～40分、1人あたり費用650円）生徒のおみやげのひとつとして思い出に残るものであった。

◎飛騨の里での民芸教室

58年にはじめておこなったもので、合掌造りの建物の中で、民話を聞いたり、土地の人の指導でわらじを作ったりすることをさせた。（所要時間60分、講師一人への謝礼として3,000円、生徒ひとり材料費として50～240円必要）

III. 59年度の実践報告

1. 日程・見学地

・ 5月23日(水)

7:30 8:00 10:58 11:20~15:00
 名駅集合→列車出発→高山駅着→高山市内グル
 ープワーク→飛驒の里着→民芸教室→宿舎着→夕食
 (バス)
 15:00 15:30-16:30 17:10 18:30
 19:00~20:00 22:30
 →グループ研究発表会→就寝

・ 5月24日(木)

6:00 6:15 6:40 7:45 8:00~8:45
 起床→ラジオ体操→朝食→宿舎発→陣屋跡・朝市
 (バス)
 13:00~14:30 15:15 15:30~17:20
 →能登金剛・昼食→千里浜宿舎着・散策・レンタ
 (バス)
 サイクル・浜辺→夕食→大社焼絵付け→キャンプ
 20:30 20:30-21:30 22:30
 ファイヤ→肝だめし→就寝

・ 5月25日(金)

6:00 6:15 6:40 7:45
 起床→ラジオ体操→朝食→宿舎発→(渚ドライブ
 8:00~8:30 9:00~10:00 10:20~
 ウェイ)→喜多家→妙立寺(忍者寺)→兼六園・
 13:00 13:30 14:01 17:16 17:25 17:30
 昼食→金沢駅着・発→名駅着→おわりの会→解散

2 事前指導計画

- ・ 4月20日(金)……新年度第1回旅行委員会(役割決定・しおりの分担決定)
- ・ 4月25日(水)……遠足(旅行委員による集合解散指導の練習)
- ・ 4月26日(木)……第2回旅行委員会(遠足指導の反省)
- ・ 4月28日(土)……第3回旅行委員会(しおりの内容-行事関係-の検討)
- ・ 5月8日(火)……第4回旅行委員会(しおりの内容-生活のきまり-の検討)
- ・ 以後数回の委員会を開き、上記の内容(特に服装問題・ねまき問題・ジュース問題 etc.)について検討を深める。
- ・ 5月12日(土)……しおり完成
- ・ 5月15日(火)……中3修学旅行保護者会(2:00~日程説明・集金)
- ・ 5月16日(水)……第3限・全体指導(旅行委員並びに教師からの説明)
- ・ 5月17日(木)……第5~6限・全体指導(旅行委員並びに教師からの説明)
- ・ 5月18日(金)……学級指導(オリエンテーリング・グループワークの内容について班会議と大社焼絵付けの下絵

を考えさす)

- ・ 5月21日(月)……第1限と第4限・係指導(各係ごとに仕事内容の打合わせ)
- ・ 5月22日(火)……第1限~12:00・事前指導(学校長と学年主任の先生の講話、持ち物調べ記名検査、点呼指導、学級ごとに最終連絡)

・ 5月23日(水)~5月25日(金)……旅行当日
 3 生徒一人ひとりを意欲的にとりくませるために
 ふうしたこと

(1) 修学旅行中の生活班の編成

宿舎の部屋割、オリエンテーリング、グループワーク、千里浜の自由行動など、旅行中の活動の基盤となるのは班活動である。A・B両担任であらかじめ打ち合わせをしておき、4月に担任になってから、アンケートによるソシオグラムをつくり、学級経営上必要となるグループ編成をした。そのまま(とはいっても、学級指導では男女混合だが、旅行中は男女別の班)旅行の班とした。つまり4月当初から学級での仲間意識が養われていった班での活動が、旅行を大変有意義にし、意欲的な行動を生みだしていったと思える。

(2) 高山市内見学オリエンテーリング

<方法>

- ア. スタート地点…高山駅前、ゴール地点…飛驒の里
- イ. 見学地の観光スタンプを押してくる(4ヶ所)
 - ・ 高山屋台会館・郷土資料館
 - ・ 飛驒工匠館・日下部家
- ウ. 2ヶ所見学後と4ヶ所見学後に教師を探してサインをもらう。
- エ. あらかじめ教師の方で決めておいた到着時間(？時？分？秒)に最も近かった班を「よし」とする。
- オ. タイムオーバーとイ・ウの不足はマイナス点を加算する。
- カ. 後述するグループワークと掃除コンクールを同時進行でおこない、掃除コンクールと合同で表彰する。

(3) グループワーク・研究発表会

ここ4~5年、毎年、本校の高校の研修旅行(修学旅行とは言わずこのように呼んでいる)に準じて、宿舎での研究発表会を目的として、市内観光だけでなく班ごとに研究調査をさせている。これは事前に学校で目的地について文献研究をし、当日は、その知識のもとに、現地の人々へのインタビューや観光名産・特産品などの実地調査をするものである。このあと宿舎で夕食までの間にB紙等にまとめさせ、夕食後に食堂で班ごとに発表をさせ、教師の評価で発表の優劣を決めている。

<59年度の発表題目>

A-1班 「高山の特産物」	B-1班 「名古屋弁と高山市民」
A-2班 「方言・服装・流行語・人家の造り」	B-2班 「高山と名古屋の違い」
A-3班 「竹細工・つげ物について」	B-3班 「高山市民に聞いた名古屋とは」
A-4班 「おみやげ屋に行く」	B-4班 「町民にインタビュー」
A-5班 「直撃死!!- (高山市民の本音)」	B-5班 「高山の食べものについて」
A-6班 「高山の郷土研究」	B-6班 「町野人々について話を聞く」

(4)旅行委員の組織の確立とリーダーシップの養成

乗り物・旅館等をおさえておくために、旅行業者からの要求で、前年度(中2)の時にコース・目的地だけは決めておかねばならない。従って、旅行委員の結成は中2の時にさかのぼる。この時は委員長1名、副委員長1名、委員6名という形で、コースの決定のために委員会を開いては、クラスで意見を聴取し修正をしていくことが主な行事であった。この時期の特筆すべきことからは2つある。

1つは、委員会でぜひ、コースの中に永平寺見学を入れ、全員で本物の座禅を経験しようということになり、学年のアンケートをとったところ大多数の賛成が得られ、本決まりになった。ところが、ひとりの生徒(家族がキリスト教信者)から宗教上の問題で参加できないとの異義反論があり、委員会で何度も討議され、果ては、憲法問題(宗教の自由)にまで発展し、結局永平寺行きは断念することになったことである。

2つ目は、妙立寺(忍者寺)の見学をしたことである。この見学地も学年生徒に圧倒的支持をされたのであるが、旅行業者の説明では、この寺は見学規制(一度に見学させる人数・約束時間に遅れると後にまわされるetc)が非常に厳しく、修学旅行の目的地には向かないということであった。我々教師の説得にもかかわらず、永平寺の断念のこともからんで生徒は譲らなかった。結局、A・B別行動でもかまわないから見学することになり、旅行最終日の宿泊出発を30分ずらす方法でとりくんだ。

さて、新年度第1回旅行委員会で委員の役割を決定した。この時もそうであるが、以後の委員会でも、教師は、こうしたいと思う最低の基準でアドバイスをするとどめ、決定事項のほとんどは委員の手にゆだねたことを強調しておきたい。

<組織の確立>

- ◎旅行委員長(1) 旅行全体を総轄し、集合解散の指揮をとる。各班の班長・副班長の指導
- ◎美化係長 (1) 旅行中の美化・清掃に関する事項の企画・立案の中心になる。各班の美化係の指導
- ◎レクリエー 旅行中のレクリエーション(キャン
ション係長(3) プファイヤ・バス内レク)に関する
事項の企画・立案の中心になる。各
班のレク係の指導
- ◎生活係長 (2) 旅行中の生活のきまり、日課の企画

立案の中心になる。各班の生活係の指導

- ◎保健係長 (1) 旅行中の健康観察など保健的分野に関する事項の企画・立案の中心になる。各班の保健係の指導

事前指導計画の項で書いたように、各係長から「しおり」の内容について提案させ討議を深めて委員会で決定していく方法をとった。実例として、ねまき問題についてとりあげてみる。

教師からは『ネグリジェだけは禁止にしてほしい』として提示したところ、生活係長が女子のため『パジャマで寝たいと思っている子が女子には多い』という意見が出された。それに対し、男子委員から『パジャマ姿で廊下を歩かれたら目のやり場に困る。ジャージで充分だ』という反論が出され、1時間ぐらゐの討論の末「ねやすいもの」として、しおりに載ることになった。全体指導での一般生徒への委員からの説明で、そのあたりの決定事情が伝えられたため、当日のねまきは、ジャージ・トレーナー類が大半で、ネグリジェはもちろん、パジャマ姿は皆無に等しかった。

ところで、いよいよ掃除コンクールについてふれることにしたい。あえて、ここまで報告をのばしてきたのは、この項目の指導の結果としてできあがった最たる出来事であり、かつ私を今回のレポートに駆りたてた動機につながるものであったからである。それは、我々教師にとってもセンセーショナルな行事であった。何をするのかといえば、単純に高山市内のゴミ拾いである。この行事が行われることになった話しあいの経過を書くことでこの項の終わりとしていたい。

委員会として、昨年までの先輩たちと違ったことをやって思い出を作りたいという理由から→オリエンテーリング・グループワーク以外に何かもう一つやれないかという意見が出た→奉仕活動はどうだろうか→高山市内の奉仕活動には何があるだろうか→駅前のそうじ・観光地のそうじはどうだろうか→それではオリエンテーリングに支障をきたすということで→オリエンテーリングをしながら、大きなポリ袋に高山市内のゴミを拾ってゴール地点まで運び、計量し重さで順位を決めよう。ということで委員会としては、割にとんとん拍子で決定した。逆に教師は本当にそんなことがやれるのだろうかとい半信半疑の気持ちが強かった。ところが、一般生徒にも受け入れられ、当日は見事に成しとげてしまった。優勝した班は実に7kgのゴミを拾ってきたのである。(後日、地元の新聞「高山時報」に記事として載った)



(5) キャンプファイヤ・肝だめしの導入

修学旅行にキャンプファイヤはイメージ的に結びつかない感じがするが、中2に経験する山の生活でのキャンプファイヤと肝だめしを、旅行にとり入れるようになったのは、千里浜を目的地にした時からである。この項目ばかりは、目的地が大きく影響すると言わねばなるまい。しかし、あえてこの項目を掲げたのは、生徒の自主的・意欲的にとりくみを促す行事として最もなじみやすく、興味強いものであると思ったからである。この年の庄巻は、旅行委員と有志によるトワリングであった。やる方も意欲的に練習した結果を見事に発表し、見る方も感動の連続で思い出に残る行事となった。



4 生徒のとりのくみの様子並びに反省

59年度のとりのくみの結果を教師自信の目でながめてみると「とにかく、すばらしい修学旅行を経験させることができた」と言えるだろう。市内見学オリエンテーリング・掃除コンクール・民芸教室・研究発表会・バス内レク・千里浜散策・大社焼絵付け・キャンプファイヤ・肝だめし等、行事への生徒のとりのくみは喜々とした顔つきであり、積極的にとりくむ姿がみられた。とかく、修学旅行の思い出は？と聞かれると『夜のまくら投げ・先生の目を盗んでジュースを飲んだり、友人とおしゃべりをしていたこと』と答えるの

が普通と思っていた教師感を変えさせてくれる程、充実した思い出の多い旅行だったと思う。旅行委員だった生徒や日頃何ごとにも無気力な生徒の事後感想文からも十分にそれが読みとれる。生徒のとりのくみの実際の紹介として、オリエンテーリング・掃除コンクールの結果を記しておく。

※オリエンテーリング・飛騨の里到着秘密タイム 14:56' 35"

班名	到着タイム	順位	点	ゴミの重さ	順位点	合計点	総合順位
A-1	14:44' 50"	⑦		4.7kg	⑦	14	6位
A-2	14:44' 40"	⑧		4.8kg	⑧	16	4位
A-3	14:38' 25"	⑤		1.0kg	①	6	10位
A-4	14:45' 00"	⑨		2.2kg	④	13	7位
A-5	14:43' 15"	⑥		4.9kg	⑨	15	5位
A-6	15:04' 15"	③-1=②		2.2kg	④	6	12位
B-1	14:52' 38"	⑩		4.5kg	⑥	17	3位
B-2	14:47' 30"	⑪		7.0kg	⑫	22	優勝
B-3	14:53' 35"	⑫		4.3kg	⑤	17	2位
B-4	15:06' 55"	②-1=①		5.6kg	⑪	12	8位
B-5	15:13' 20"	①-1=⑩		5.5kg	⑩	10	9位
B-6	14:32' 30"	④		1.5kg	②	6	10位

優勝班から3位までの班に、宿舎から提供していただいた宣伝用のシャープペンシルを、又研究発表会の優秀班には、旅行委員手作りのマドレーヌを賞品として与えた。最下位並びに時間に遅れた班には後日反省文を書かす処置をした。

このように成功した旅行ではあったが、反省点もいくつかある。

- ア. スケジュールが余りにも混みすぎている。もう少し宿舎等（特に食事時間）で余裕を持たせた方がよかったのでは
- イ. 妙立寺（忍者寺）の見学のためのA・B別行動のしわよせが兼六園見学に出て、充実感を与えられなかったのでは
- ウ. グループワークの内容に安易なものが目だち出し一度に三つの行事をさせたことに対する反省
- エ. 今年の担任が修学旅行引率経験者ということで、事前の下見に行かなかったため、宿舎の係の人との打合せが不十分で当日、くい違いが生じ、生徒へのとまどいを感じさせたこと

5. 今後の問題点

すぐ前にも書いたが、教師側の慣れにともない。「生徒にとっては一生に一度の経験」ということを忘れがちになることは、今後充分に気をつけねばなるまい。そういった意味では目的地を毎年変えることにも意味があるのかもしれない。又、キャンプファイヤ等に対する生徒の感激の現れを考えると、観光地への旅行から、スキーや登山などの目的で行く方向に今後もっていくことも考えられる。しかしその場合には、

2年で行う山の生活との兼ねあいが問題になるが。

IV おわりに

『附属中学の生徒だからできるのだ』と、批判を受けるのを覚悟の上で、ここまでレポートしてきたが、途中で書いたように、レポーターの私自身にとってよい思い出となるような旅行ができたことを御理解いただきたい。教職の仕事につき、修学旅行など行事はこうあるべきだと描いていた理想の一端が実現できた喜びを、今現在も味わっているのである。その実際を充分には言い尽くすことはできなかったと思うが、私の

身勝手な結論を言わせてもらえば、表題のような修学旅行を創り出していく源は、常日頃からの生徒指導に対する、教師の情熱と教師集団の団結と実践力ではないだろうかと考えている。そういった意味で、どこの中学校においても可能性の含まれた内容であったことを信じている。

最後に、自画自賛的事がらではあるが、旅行委員長はじめ旅行委員の生徒たちに教師から手作りの感謝状を贈ったことと、英語科の授業で英文レポートを各班组ごとに作らせ、学校祭の展示作品に出品したことを付記してレポートを終わりたい。